



法人名称	社会福祉法人 多摩大和園
事業所名称	ホームヘルプステーションやまと苑
所在地	〒207-0003 東大和市狭山2丁目1264番5号
電話番号	042-563-8162



◆ 管理者の干坂さんにお話を伺いました。

【訪問日：平成28年11月30日】

○第三者評価受審のきっかけは何ですか？

併設している特別養護老人ホームが、第三者評価を受審する必要があったので、ヘルプステーションでも受審することにしました。経営層も、目の前の仕事に追われてしまいがちの中で、業務を振り返り総合的にチェック出来る機会として、第三者評価の受審は重要です。費用もかけて受審するのですから、自分たちがそれに見合った気づきを得ることが大切だと思っています。平成19年度以降は毎年受審しているので、新しい職員も恒例のものとして受け止めています。

○継続して第三者評価を受審したことで、良かったことはありますか？

基本的には毎回、評価機関を変えて受審しているのですが、評価機関によって「介護という現場をよく見してくれる評価機関」「運営・管理を重点的に見ってくれる評価機関」など視点が異なるため、評価を受審するたび新鮮で、多面的に自分たちの事業所を見ることが出来ます。また、継続して評価を受審することで、良い意味で緊張感を持続することができ、コンスタントに事業所を見える化しながら仕事をしていけるのはメリットだと思います。

○受審して、気づきを得たのはどのようなことでしたか？

職員が自己評価のアンケートで各項目に対して意見を詳細に書いてくれるので、職員の傾向や、その時々での不満など、何を感じているかがよく分かり、改善できる内容はすぐに取り組んでいます。例えば、ヘルパー会議で、利用者情報の共有以外にも、マニュアル等の見直しを検討する時間も必要なことに気づき、月2回のヘルパー会議を月4回に増やしました。その結果、マニュアルやサービス提供票の見直しに充てる時間が持てるようになりました。また、これまで特養主催の研修に参加していましたが、ヘルパーならではの内容で研修のリクエストがあり、ヘルプステーション主催で開催しました。

○受審結果をどのように改善に活かされていますか？

毎年2月までに策定する事業計画に活用しています。評価機関からフィードバックを受ける時期を1月中旬に設定し、フィードバック内容を踏まえて「良い評価をもらったので、新規の目標からは外す事項」「4月以降の計画に盛り込みチャレンジする事項」など、計画に取り入れる事項を精査しています。また、事業計画策定のため、次年度どのような取り組みが必要か、施設内で独自の職員アンケートも実施していますが、並行して、第三者評価の職員による自己評価の集計結果、利用者からの声をまとめた利用者調査の集計結果を、職員全員に目を通してもらい、考える材料としています。

ご協力ありがとうございました。